

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月4日

[評価実施概要]

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウェル		
事業所名	グループホーム みつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県千葉市若葉区みつわ台1-1-4 (電話) 043-207-7075		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月4日	評価確定日	平成21年1月7日

[情報提供票より] (20年10月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 6人, 非常勤 17人, 常勤換算	8.9人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火構造木造		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱費15,000円, レクリエーション実費, 通院介助1時間950円, おむつ・理美容実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (280,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:2年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (10月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 59 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団厚生会 栗原医院
---------	----------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

閑静な住宅街の中にあるグループホームで、ホームの前には桜並木があり、春には満開の桜がホームから眺められる。東南角地で日当たりが良く、家庭的な雰囲気をかもし出している。訪問調査時の入居者と職員の係りは穏やかであり、笑いが溢れているところを垣間見ることができた。家族の面会も多く、職員と家族とのコミュニケーションも良好である。母体が医療法人であり、医療との連携を積極的に推進している。科学と医療の視点を持つ介護の普及や、地域密着型の医療と介護を理念に掲げ、医療ニーズに対応できるホームを目指している。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回評価で指摘された点は、すべて改善が実施されていた。介護計画は、定期的見直しのされたものと随時見直しのものが確認できた。地域交流では、積極的な行事参加などを記録で確認した。食事においても、楽しい食事の時間を職員と入居者が共有しているのを観察できた。また入居者の口から食事のおいしさ、楽しさを聞くことができた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 幹部職員は、現場従業員に意見を聞きながら自己評価を行っている。サービス評価は人材育成の機会にもなるので、今後も全職員参加で行うことが期待される。また課題は優先順位をつけて計画的に検討することが促される。評価に現場従業員も参加することで、一人ひとりが課題に当事者意識を持つことができると思われる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) ホームの状況、外部評価受審の報告等を行い、参加者の意見を運営に活かしている。特に入居者家族の参加が多く、活発な意見交換の記録が確認できた。今年度は既に2回開催し、3ヶ月に1回の開催を予定している。ホームが目指している運営推進会議のあり方を職員と共に考え、年間計画のもとで、全体像や会議の目的、テーマを決定すると、より効果的な会議が開催できると思われる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族からの意見や要望が出やすいよう、雰囲気づくりに配慮している。家族の面会が比較的多いので、入居者個々に合わせた報告が面会時にできている。金銭管理は預かり金の残額が少なくなり次第報告している。今後、ホーム便りとして「桜だより」を3ヶ月に1回のペースで発行し、家族にも送付することを予定している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 地域で行われる桜祭り、敬老会、幼稚園の運動会などに積極的に参加し、交流を深めている。地域の会合や行事等にはなるべく参加できるよう、職員の配置を考慮し、出席しやすいようにしている。地域交流は前回評価の改善項目の一つであり、積極的に取り組みをしている様子が伺えた。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以下の5つの理念を掲げている。1. 御入居者と御家族が健康で幸福な他の私生活を送れるようにサポートします。2. 御入居者の尊厳を重視します。3. 地域密着型の医療介護に努めます。4. 誠心誠意を込めたサービス、介護技術の向上に努めます。5. 科学的かつ適正な医療介護を普及することを目的とします。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一度のミーティングをはじめとして、日々の生活の中で理念を共有し、理念に基づくケアが実践できるよう、管理者と職員は常にコミュニケーションを取っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の桜祭り、敬老会、幼稚園の運動会などに積極的に参加し、地域交流を深めている。可能な限り地域活動に参加できるよう、当日の職員の人員配置なども考慮している。前回の外部評価の改善項目であり、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は誰でも閲覧できるように玄関に掲示している。自己評価は管理者・ユニットリーダーが中心に作成している。ユニットリーダーは職員から意見を吸い上げ、自己評価に反映するよう努めているが、人によっては評価の意義や改善課題などを十分に把握していないよう見受けられる。	○	自己評価に係ることは、サービスの見直しや組織体制を再検討する機会となる。幹部職員のみでなく、現場従業員全員も自己評価に加わることで、事業所が抱える課題を共通認識できる。今後は全職員参加で自己評価を行うとともに、課題の優先順位を明らかにした改善計画を作成することが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況、外部評価受審等の報告を行い、参加者の意見を運営に活かしている。特に入居者家族の参加は多く、活発な意見交換の記録が確認できた。今年度はすでに2回開催し、3ヶ月に1回の開催ペースを維持している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている入居者が数名いるため、社会援護課との連絡は密に行っている。状態が不安定な入居者もいるので、あんしんケアセンターとの連絡も頻繁に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が頻繁であるので、入居者個々にあわせた報告がその都度できている。金銭については預かり金が少なくなり次第報告している。ホームの状況等を伝える便りについては、3ヶ月に1回「桜だより」を定期的に家族に出したいと考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。職員は家族の面会を意見・要望が聞ける大切な機会と捉えている。苦情等を受けたらすぐに記録し、職員で話し合い、改善に向けて取り組むようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者によっては、職員の離職を伝えない方がよい場合もあるので、状況に合わせた対応をしている。離職を最小限に抑えるため、担当者が職員の悩みや不満を把握し、組織全体で迅速に対応している。賃金等、福利厚生面においても、職員が働きやすいよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員・パートともに外部研修を受講できるよう配慮している。研修費や交通費は法人が負担する。ホーム内でも月一回の会議でその都度テーマを選び、勉強会を行っている。しかしながら、計画的かつ職員のレベルに合わせた研修とまではいい難い状況である。	○	職員の知識・技術の不足を抽出し、それを習得する理由を理解した上で、学ぶ機会（業務内）を設定する。これが働きながらのトレーニングである。外部研修と働きながらのトレーニング、会議での勉強会を効果的に組み合わせ、個別具体的な人材育成を行うことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に参加することで同業者との交流を深めている。管理者は他ホームを訪問し、運営推進会議の進め方、食事の提供等の取組みを学び、ホームの運営に活かしている。しかし現場職員には、同業者との交流ができる機会を作っていない。	○	今後は現場職員にも同業者との交流の機会を作り、情報交換等を行って、ケアの質の向上に繋げることが必要と思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学し、雰囲気を見てもらったり、職員との交流を図るようにしている。体験入居は三日間ほど、食事代1日1,500円で利用できる。入居者本人と家族が納得し、安心して住替えできるように配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者本人の希望を尊重し、自身で行えることは出来る限りやって貰うよう職員が見守っている。入居者と職員は、共に普通の生活を楽しみ、教えたり教えられる関係を大切にしている。日々の様々な出来事を、職員と入居者が一緒に楽しむ姿が伺えた。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の希望や意向が表出困難な場合、職員は言葉かけを工夫したり、どちらにするか選択できるような場面を作り、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、センター方式アセスメントシートを利用して担当者会議で話し合い、入居者と家族の意向も取り入れながら作成している。日々の変化等も細かく記録されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスで話し合い、概ね3ヶ月に一度見直し、再作成している。見直した介護計画は家族にも説明し、認印を貰っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年、家族の希望でターミナルケアを行った。母体法人が医療系であるため、医療面では安心感があり、看取りに関する家族の信頼は厚い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医にかかる他、入居前からのかかりつけ医にかかることもできる。送迎はホームで行う。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時、家族に重度化対応の説明をし、看取り介護に関する同意書も貰っている。職員は看護師の指導を受け、ターミナルケアに臨んでいる。医療機関や家族との連携、ホームの看取り体制や役割分担なども明確化されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
は					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱い方針や利用目的は明示されている。入居者の顔写真の入ったホーム便りなども、家族等の同意を得た上で作成している。プライバシーに関しては、入浴、トイレ誘導、日常生活での言葉かけや対応など、職員は常に意識して配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴時間等、できるだけ入居者のペースを大切にして、決してホームや職員の都合を優先させないよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は業者に依頼し、誕生日などのリクエスト料理のみホームで作っている。食事の前にその日のメニューを読み上げ、職員も同じ食卓で楽しく頂いている。入居者は盛り付け・後片付けなどに参加し、持てる力の維持に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の体調や希望に合わせ、二日に一回は入浴するよう促している。入浴は午前でも午後でも可能である。また風呂に入らない場合は、清拭、部分浴などで清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が長い間経験してきた家事の仕事などは、リハビリや能力の維持にも繋がるので、なるべく行ってもらおう働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日中ホームの中で過ごすことにならないよう、散歩や買物にこまめに出かけるようにしている。また同じコースの散歩ばかりにならないよう、道を変えたりして気分転換を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠している。ホームのすぐ前が道路になっているため交通事故防止および外部からの不審者侵入がないようにするため、家族に説明し、了解を得ている。	○	自由に家の外に出られないことは、入居者にとってはストレスとなることもある。施錠が入居者の行動制限にならないよう、配慮が求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署立会いの避難訓練が行われている。災害時の職員の役割分担、連絡網は整備され、夜間は近隣在住の職員が応援に駆けつけることができる。夜間を想定した避難訓練は、まだ行っていない。	○	夜間の地震や火災を想定した夜勤者の訓練を行うことが求められる。近隣住民との夜間の協力体制もできると、更によいと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成、カロリー計算は、栄養士が行っている。水分摂取量は記録をとっている。入居者の嚥下の状況に合わせた調理方法が取られていて、刻み食、とろみ食、おかゆなどがおいしそうに盛り付けられ、食欲をそっしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の隅に一人がけのソファが置かれていて、窓から外の景色が楽しめるようにしている。共用空間は明るく、静かで、換気もされている。見やすい時計やカレンダーも配置され、花や装飾が季節感をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は整理整頓され、清潔が保たれている。馴染みの品や思い出の品、入居者の作品等が家族と相談の上持ち込まれ、安全に居心地よく生活できるよう配慮されている。		